

下部消化管内視鏡(大腸カメラ)の説明及び同意書

【下部消化管内視鏡検査の目的と検査方法】

下部消化管内視鏡(大腸カメラ)は大腸を観察し炎症、腫瘍、ポリープ、がんなどの病気を診断して適切な治療方針を立てることが目的です。

- ① 消化管の動きを抑える薬の注射をします。
- ② 肛門にゼリーを塗り内視鏡(大腸カメラ)を挿入し大腸を観察します。
⇒必要に応じて医療用色素を使用した詳細な観察を行い組織を採取しての検査(生検、病理検査)を行います。
- ③ 終了⇒検査時間:個人差はありますが平均20～30分です。

【検査の安全性、偶発症について】

日本消化器内視鏡学会の集計(2004年発表)では、0.069%(1万人に6.9人)の頻度で何らかの偶発性(出血、裂傷、穿孔、薬剤アレルギー、持病の悪化など)が報告されており、0.00088%(100万人に8.8人)の頻度で死亡例も報告されております。担当医は安全に配慮して検査を行います。稀に発生する偶発症につき、ご理解下さい。万が一、偶発症が発生した場合は緊急対応を行い、連携病院とともに最善を尽くします。なお、偶発症にかかる治療費は通常の保険診療となります。一定の自己負担が発生しますことをご了承下さい。

(一財) 杜の都産業保健会 一番町健診クリニック 所長 殿

このたび、内視鏡による検査・治療を依頼するにあたり、その内容・必要性及びそれに伴う偶発性については理解しましたので実施に同意します。

令和 年 月 日

住所 _____

氏名 _____ (自署)